

## 「海ノ民話」を語り継ぐ人たちの想い

日本の物語の多くは、  
海との深いつながりのなかで語られてきています。

長い歴史を経て伝わってきた「海ノ民話」を、  
子供たちに伝え、さらに子供たちから次の世代へつないでいく。

2018年からはじまった「海ノ民話のまちプロジェクト」には、  
そのような想いが込められています。

3年目を迎えた2020年は、自治体や地元企業の方々はもちろん、  
地域に根差して活動されている郷土史家の方々や  
その土地で暮らす人々とのつながりも育まれてきています。

また、その動きは地方創生とも重なり、  
活発で多岐にわたる取り組みが各地で起こっています。

「海ノ民話」を語り継ぐ人たちの想いは、  
地域に秘めていた可能性に新しい波を起こしはじめています。



海と日本PROJECTは  
海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくために  
日本財団の旗振りのもと、  
オールジャパンで推進するプロジェクトです。



海と日本PROJECT



海ノ民話のまちプロジェクト

制作・発行：一般社団法人日本昔ばなし協会 2021年3月31日





# 「海ノ民話のまちプロジェクト」とは？

海うみの物語ものがたりがある  
伝えたい



僕ぼくのまちには

「海ノ民話のまちプロジェクト」は、海と深く関わりを持つ日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐプロジェクトです。日本中に残された海にまつわる「民話」「伝承」を選定し、次の世代を担う子供たちから、さらに次の世代へと語り継ぐ機運醸成を図ります。語り継がれてきた物語に込められた「思い」「警鐘」「教訓」は、現代の私たちに多くのことを教えてくれます。この活動を多くの方に知っていただき、「海」との関わりを考える機会にさせていただきたいと考えています。

「海ノ民話のまちプロジェクト」は、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環として実施しています。

Report

## 海で遊ぶ子供たちが減少しています！

### この国の海体験を育むために、 私たちにできることは？

海の恵みを享受する国、日本。

その一方で、10代の40%は1年で1日も海に出かけたことはなく、

若い世代の海離れが深刻なことも私たちの調査でわかってきています。

また同じ調査では「子供の海体験が大切だ」との回答が90%以上であるのに、「子供に十分な海体験を提供している」と答えた親は25%しかいませんでした。

このままでは世代が新しくなるたびに、

海と接する機会が減ってしまうのではないか。

では、この国の海体験を育むために私たちに何ができるのか？

親子で海の学びにつながる楽しい機会と体験をつくること。

あらゆる機関と連携し、誰もが参加できる海での活動を充実させること。

海と暮らしのつながりの理解を深めること…。

できること、やれることはまだまだたくさんあります。

次世代へ海を引き継ぐため、私たちはあらゆる取り組みを続けていきます。

〔調査概要〕

調査名：海と日本人に対する意識調査

対象：全都道府県15歳～69歳の男女（男性 5,800名 女性5,800名）

回答数：有効回答数 11,600名

（内訳：10代（15～19歳）2,200名 / 20代～60代 9,400名（各都道府県200名 性年代均等））

期間：2019年5月24日～6月3日

方法：インターネット調査



「海ノ民話のまちプロジェクト」  
特別インタビュー

## 子供たちに海や自分のまちに もっと興味をもってもらいたい。 「海ノ民話」としてアニメ化することで 見えてきたものがある。

「海ノ民話のまちプロジェクト」は、周囲を海に囲まれた日本という国の「海との関わり」と「地域の誇り」を、子供たちに伝え語り継ぐプロジェクトです。そのプロジェクトの認定委員長でもあり、アニメ監督でもある沼田心之介氏に取り組む想いや、今後のビジョンを語ってもらいました。



### 沼田 心之介

海ノ民話のまち実行委員会認定委員長

アニメ監督/アニメプロデューサー

一般社団法人日本昔ばなし協会代表理事

2012年 株式会社トマソン 入社  
「ふるさと再生日本の昔ばなし」音響監督、脚本、演出担当  
「ふるさとめぐり日本の昔ばなし」では監督を兼務  
2018年 文化庁若手アニメーター育成事業 あにめたまご  
「ミルキーパニック」監督  
2019年「けものフレンズ2」アニメーションプロデューサー  
2019年 12月23日  
一般社団法人日本昔ばなし協会 設立 日本財団 海ノ民話  
のまちプロジェクト 監督 / 実行委員長

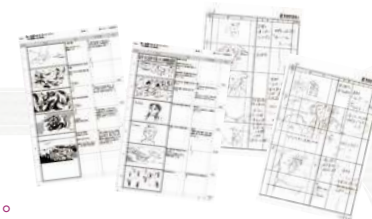


日本昔ばなし協会は、各地の昔ばなしの発掘と伝承、人材の育成、情報の共有と提供、及び、地域社会への貢献活動を行い、伝統文化の振興と社会教育を推進しています。また、地域の活性化、地方創生を目的とし、その目的に資するために事業に取り組んでいます。その活動の一環として「海ノ民話のまちプロジェクト」に取り組んでいます。

## 想像力が豊かな子供たちに、 自由な発想で表現できるアニメで海の学びを伝えていく。

真剣にアニメをみる子供たちに出会うたび、このプロジェクトに携われてよかったと感じます。民話には海の学びやまちの歴史や文化が含まれています。アニメ化することで、より多くの子供たちに届けていくことができたら嬉しいです。子供たちは想像力が豊か。アニメも自由な発想で表現ができます。例えば、「一里島」(2019年度認定)という民話では島を擬人化しているのですが、そういう表現は実写ではなかなか難しい。アニメだからこそできる

伝え方があります。また、民話は庶民の話であり、そこに暮らしていた普通の人たちが主人公になる話が多い。地域のなかで関係性を築いてきた人たちの話から、学べることはたくさんあると思っています。「海ノ民話」のアニメをみることで海に興味を持ち、海のそなえ、海の恵みなどの海の学びを得る機会につながればと考えています。



## 海を眺め、人と会い、気付くことがある。 「海ノ民話」に込められた先代の知恵を発信していきたい。

このプロジェクトでは、民話の調査から地域の人たちとの話し合いまで、従来のアニメ制作の枠を越えたさまざまな場面に携わらせていただいています。物語に込められた想いや学びを汲み取り、その地域の人々やクリエイターたちとコミュニケーションをとりながら、一つのアニメをつくりあげていきます。民話の伝わる地域に足を踏み入れると、海に隣接した民家や神社や灯台などから、人々の文化や思想や信仰に気づくことがあります。例えば、島根県松江市に伝わる民話「えびすさまとにわとり」(2020年度認定)では、最後のオチに鶏の肉や卵を食べてはいけないという話があります。驚いたのは、そこで暮らす人々のなかには今でも鶏肉や卵料理を食べない文化が残っているの

す。何百年も前の民話の言い伝えを守っている。民話のポテンシャルを再認識した場面でした。私は、このプロジェクトを通して、昔ばなしを使って町おこしにつながる取り組みができないだろうか、「一般社団法人日本昔ばなし協会」を立ち上げました。私が影響を受けたように、その人なりの捉え方で、海や地域に対する行動のきっかけが生まれていくと嬉しいです。日本は海に囲まれた島国です。先祖代々海と共に生きてきた人々が多く、民話の中にも描かれています。一方で海の問題は日本だけにとどまらず、地球規模の問題です。民話に含まれる先代の知恵を受け継ぎ、発信していくことが我々の使命とも感じています。

# 語り継がれてきた、その理由

遙かむかしから口伝にて伝承されてきた民話は、  
どのように生まれ、どのようなメッセージを発信してきたのでしょうか。  
時代を越えて、人々に親しまれてきた民話の物語を紐解いていきます。

## 民話は庶民の物語

おじいさん、おばあさんや、お父さん、お母さんが、語り部となり子供たちに伝えてきた物語には、地域で生きる人の暮らしや、自然と共に生きようとする人々の心が、描かれています。民話は庶民のエンターテインメントでもあり、学びの教科書でもあったのです。

例えば!

瀬戸内海の中島という地域に伝わる民話

### おたるがした

あらすじ

むかしむかし、ある村を津波が襲った。村人は逃げて助かるが、畑や家や船が流されてしまった浜辺には、見たことのないほど大きな樽が流れつく。不思議がる人たちのなかで、「津波をおこしたトンマな巨人の忘れ物だ」と子供が言うと、村人たちはおかしくなって笑う。村人たちは元気を取り戻し、この樽のように頑丈な村をつくると、改めて再起する。

学びのポイント

### 海との付き合い方

古来から日本では「海の彼方から来るものは良きもの」と言われています。物語のなかでも、海から流れてきた大きな樽をみて、村人は元気を取り戻しています。津波などによって大きな被害を受ける海ではあるけれど、海の恵みによって生きることができている。そのように、私たちの祖先は海に対して畏敬の念をもって接してきました。

#### 海の恵み

海には食糧としての海洋資源があり、畑の肥料となる海藻もあります。海の恵みは、傷ついた村人たちにとって復興の力の源となったのです。この物語を通して生きる力の大切さを学ぶことができます。

#### 津波対策

穏やかな海からは想像もできないほど、ときに海はその姿を変えるときがあります。特に、地震の際には津波の危険があるため、すばやく高いところに避難することが重要です。物語は水難事故への注意を促し、語り継ぐことで防災意識の風化を防ぐことができるのです。

## 「海ノ民話」が育ててくれたもの

船の安全を守る島の話。亀に姿を変えて子供を助けた母親の話。海を穏やかにする風の話。地域に伝わる民話では、その土地に生きる自然や動物たちが、ときに主人公となり登場しています。自分たちのまちの民話を語り継ぐことで、地域の誇りが育まれていったのです。

例えば!

長崎の佐世保湾あたりの大小100の島の民話

### 一里島

あらすじ

むかしむかし、長崎の佐世保湾の外側に100の島が並んでいた。ある時、島々の神が集まり宴会をしていると、弁天島だけが眠りこけてしまい、元の場所に戻れなくなる。ところが弁天島はその場所がすっかり気に入り、船の安全を守ることに。そこが岸からちょうど一里のところだったので今は一里島と呼ばれ、周辺は九十九島と呼ばれるようになった。

学びのポイント

### 自然を敬う心

入り組んだ地形による穏やかな波が豊かな海洋資源を育む九十九島。佐世保湾に近づいたことを船に教えてくれる、岸から一里のところにある一里島。海に深く関わりながら暮らす人々のなかで、その環境は大切に受け継がれています。島は生きている。島を主人公とする物語から、自然に対する敬愛の念が伝わってきます。

#### 八百万の神

一里島の話のように島に宿る神様をはじめ、風や山などの自然現象や自然物に宿る神様などの言い伝えが、各地に残っています。それらの神様は八百万の神と呼ばれています。人々は自然を、畏れ、神として祀ることで、長い間、付き合い続けてきたのです。

#### 安全な航路の把握

海底の地形が複雑であり、干満の差が大きい佐世保湾。穏やかに見える海でも、岩盤が隆起した岩礁など、漁や船旅には注意が必要な海域があります。岸から一里の場所にある一里島は、船乗りたちの安全な航路の把握に役立っているのです。



## 子供たちに伝えたい物語

民話は、語りやすい言葉や言い回し、耳から聞きやすいストーリーで繰り返し語られてきました。過去を知り、未来に役立てること。コミュニティのルールを守ること。メッセージを広くかつ間接的に伝えること。そのような役割や機能が民話にはあります。それは、子供たちに伝えたい物語でもあり、子供たちが語りたくなる物語でもあるのです。

例えば!

焼津の港に伝わる民話

### 甚助の板子



あらすじ

むかし、焼津の港に甚助という船乗りがいた。山の景色で船の場所がわかる山あての名人だったが、航海中の嵐で大波に飲まれてしまう。海に浮いた板子につかまり一人耐える甚助。あきらめかけたときに、沈んでいった船長の姿が浮かび、待っている家族の姿を思い出す。すると、雨が止み、風が止み、満点の星空が広がる。北極星を見つけた甚助は山をたよりに、ふるさとを目指す。

学びのポイント

### 道標としての民話

嵐の予兆を無視した航海により、船が大波にのまれてしまう物語から、海の禁忌を学ぶことができます。このような禁忌は、ながい歴史のなかで、親から子へ、祖父母から孫へと伝わり、海の安全を願う心もちながら、人を戒めてきました。ときに民話は、輝く北極星のように、私たちの道標となるのです。

#### 危険を伝える禁忌

むかしから、朝焼けは台風の予兆であると言われていました。朝焼けの予兆を無視して、船を出してしまったことは、海の禁忌をやぶってしまったともいえます。民話を通して海の禁忌を繰り返し伝えることで、子供たちも海の危険な一面を学ぶことができるのです。

#### 山に求めた海の道

遠くはなれた山の景色で、洋上の位置を知ることができる航海術、山あて。この航海術は、山に求めた海の道といわれ近代の操舵以前の伝統的技術でした。海の危険に対するこのような備えにより助かることができた甚助の物語から、自然に対する向き合い方を学ぶことができます。

Mission

## 「海ノ民話」を守ろう

日本には、80,000以上の民話があるとされていますが、2000年以降、民話全集などの出版はされておられません。また、民話が集約されておらず、自治体の合併や語り部の減少などにより、貴重な資料が失われている現実もあると考えられます。海と深く関わりを持つ日本人の信仰や道徳を学ぶことができる「海ノ民話」。家族や地域のコミュニティが多様化している現代において、私たちは「海ノ民話」を守ることは、海との関わりや地域の誇りを育むためにも重要だと考えています。今こそ、先人たちのメッセージと民話の可能性に耳を傾けることが必要なのではないのでしょうか。

だから私たちは「海ノ民話のまちプロジェクト」で大切な民話をアニメーションというカタチで伝えていきます。

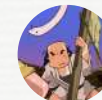
2020年度認定作品



お夏と藤平



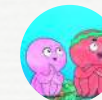
五頭竜と井天様



錨の溝



サザエと弁天若の女神様



速吸瀬戸の守り神



お屋敷になったクジラ

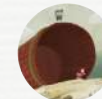


えびすさまにわとり

2019年度認定作品



甚助の板子



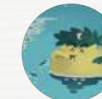
おたるがした



奥武観音堂由来

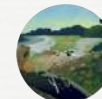


大根明神のアツピ祭り

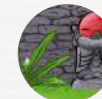


一里島

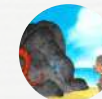
2018年度認定作品



海の神と陸の神



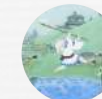
高麗島の伝説



おなべ岩



亀の松



寿都の風評さま

<https://minwa.uminohi.jp/>



# 「海との関わり」や「地域の誇り」を伝えていく 海ノ民話のまちプロジェクト

日本中に残された民話を発掘し、親しみやすいアニメ等の表現で、「海との関わり」や「地域の誇り」を子供たちへ伝え語り継ぐことを目的とした「海ノ民話のまちプロジェクト」。海と人と地域のつながりを育みながら、民話をアニメで地域の資源にしていきます。その取り組みをご紹介します。

## 地域に根差した3つの取り組み

プロジェクトは、海にまつわる民話を自治体に募集する春にはじまります。選ばれた地域は「海ノ民話のまち」として、地元で立ち上げる実行委員会や第一線で活躍しているアニメの作り手たちとともに、アニメづくりや地元の観光資源づくりを行います。

1年間の制作の流れ

### 春

#### ① 「海ノ民話のまち」を募集・認定

全国から民話を募集します。応募のあった地域のなかから、「海ノ民話のまち」を認定します。その地域には認定証の授与を行います。



沖縄県南城市役所



海ノ民話のまち  
(2020年度現在)

認定証

### ＼ 打ち合わせ内容を聞いてみました! /

民話の舞台を見学するフィールドワークや民話を活用した商品開発など、地域を巻き込んだアイデアを出し合っていました。

アニメ作り

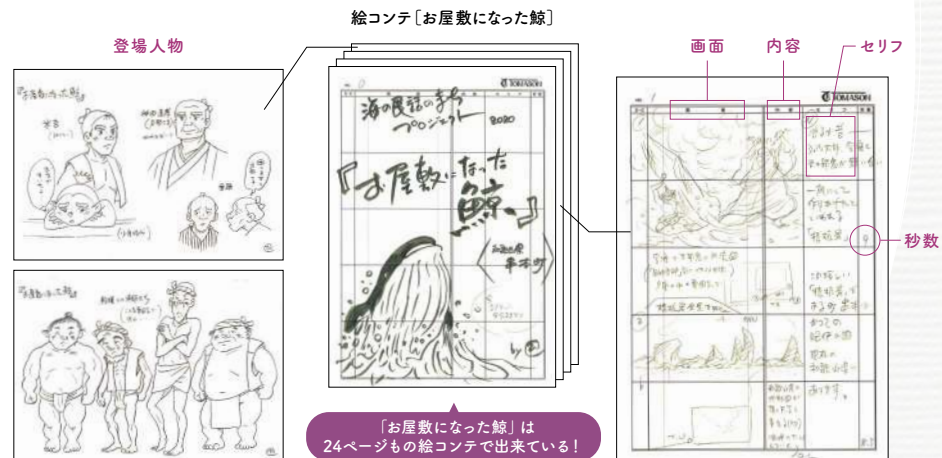
### 夏

#### ② アニメづくり

民話の原作をもとにアニメづくりがはじまります。もちろんこの間も、絵コンテなどをもとに、作り手とまちの人たちのコミュニケーションは続きます。

#### 絵コンテって どんなの?

アニメの構成を決める設計図ともいわれる絵コンテ。登場人物やセリフや意図などが、時系列で描かれています。



### 秋

### 冬

### 春

#### ③ アニメ完成報告&表敬訪問

アニメの完成にとともに、各自治体へ表敬訪問を行います。メディアに取り上げられることにより、地域のことをより広く深く伝えていきます。各地で上映会や地域の方々によるアニメを活用した取り組みが波及していきます。



上映会[島根県]



表敬訪問[静岡県]



表敬訪問[長崎県]

地域の方々による取り組みが波及していきます

アニメ作りがスタート



# 民話の魅力地域に アニメでひろがる地域のつながり

News

## まちに愛される地域の民話

地元を民話で盛り上げる。「海ノ民話のまちプロジェクト」をきっかけに、「海ノ民話のまち」に認定された地域の活動が活発化しています。それぞれの地域のイベントや商品展開などについて紹介します。

1

### 各地で行われる地域のイベント

学校などの教育機関や水族館などでの上映会。民話の舞台となった場所で子供たちと学ぶフィールドワークなど。地域の方々の活動が行われています。

2

### 地元企業と連携した商品の企画・開発

アニメのビジュアルやシナリオをもとに、地元の商店や企業とのコラボレーションが実現。「海ノ民話」を活用した商品が各地で誕生しています。

3

### アニメの素材を使った広報活動

ポスターやホームページなどの広報物に「海ノ民話」のアニメを活用することで、今までアプローチできていなかった人たちにも、地域の魅力を発信します。

Pick up /

瀬戸内海の中島の文化祭で、完成したアニメの上映会とともに、島のお母さんたちの劇団が「おたるがした」をテーマにした演劇を上演。(おたるがした / 愛媛県松山市)



上映会



演劇の様子



子供たちとのフィールドワーク

Pick up /

江の島神社に奉納した塩で作る塩羊羹のパッケージデザインとの共同開発。

■中村屋羊羹店  
(五頭龍と弁天様/神奈川県藤沢市)



海をイメージした「青い海老せんべい」。オリジナルパッケージと海老で「五頭龍」になるようなデザイン。

■丸焼きたこせんべい「あさひ本店」  
(五頭龍と弁天様/神奈川県藤沢市)

民話にちなんで卵を使わずにつくられた「美保開民話菓子えびすさま」とわとり。

■中浦食品株式会社  
(えびすさまとわとり/ 島根県松江市)



Pick up /

「海ノ民話」のキャラクターを集めた塗り絵を湘南地区の小学校に配布。

■NPO法人海さくら  
(五頭龍と弁天様/神奈川県藤沢市)



忽那諸島のガイドブックに小冊子を挟み込んで配布。

■まつやま里島ツーリズム連絡協議会  
(おなべ岩・おたるがした/愛媛県松山市)



オリジナルポスターを全商工会員の施設で掲示。

■伊方町商工会  
(速吸瀬戸の守り神/愛媛県伊方町)



「海ノ民話」のアニメ制作は、地域を知ることであり、つながりをつくることでもあります。そこで発掘された史実や人との出会いが、新しい観光資源を生み、地域の魅力を育てていきます。アニメの世界だけにとどまらない地域のつながりがひろがっています。



今は風車があって  
今でも風とつながりが  
深いことがわかった

静岡県袋井市  
民話  
「亀の松」

江戸時代の人が  
高潮から助かった  
知恵をもとに  
命山が作られていることが  
わかってよかった

いつも見る神社に  
風評さまがあることを  
アニメを観て  
初めて知った

ニシンが  
またたくさんとれると  
いいと思った

津波が来たら  
すぐに高台に逃げないと  
いけないと思った

子供を思う気持ちが  
母親を亀にして  
子供を助けたという部分が  
とても心があたたまった

北海道寿都町  
民話  
「寿都の風評さま」



Voice

## 子供たちの声

「海ノ民話のまち」で行われたアニメの上映会やフィールドワークに参加した、子供たちの声をひろってきました。

長崎県佐世保市  
民話  
「高麗島の伝説」

お地蔵様のお話を  
信じた島の人たちが  
助かってよかった

大山の山から  
水が来ているから、  
島根の海は  
豊かなんだとわかった

えびすさまが  
印象に残った

引越してきたので、  
地元のことが  
わからなかったので  
勉強になった

島根県松江市  
民話  
「えびすさまとわとり」

愛媛県松山市  
民話  
「おなべ岩」

海の恵みを  
当たり前と思わず、  
限りあるものだと感じた



神様のけんかが  
台風だと知って  
面白かった

いまままカンダーは  
毎年咲いていて、  
ずっと続いていたもの  
なんだと思った

海の資源を  
取り尽くしてはいけない  
残してやれば  
再生するものだとわかった



サンゴを魚が食べて砂浜になって  
いたんだとびっくりした

沖縄県名護市  
民話  
「海の神と陸の神」

いまはタコが  
あまり獲れないと知って、  
なぜだろうと思った





# 一人ひとりの想いが 「海ノ民話のまち」をつくっている

「海ノ民話のまちプロジェクト」では、各地域でつくられる実行委員会とともに、地域での民話の活用を企画・進行していきます。  
地域の実行委員会、アニメを活用してくれる地元の方々、クリエイターたち。これらの人々が一丸となって「海ノ民話のまち」を盛り上げていきます。

## ① 地域の実行委員会

地域の実行委員会は、地元の民話を掘り起こし、どのように活用していくかを検討、調整する組織です。地域の人々への発信やとりまとめなど、地元根付いたコミュニケーションを担います。



この民話の学びは、こういうところ！  
この場面をアニメにしてほしい

この民話をつかった商品をつくって地域を盛りあげたい

地元の神社に伝わる民話だから、資料があるかもしれない

子供たちに地域の民話をみせてあげたい

民話が生まれた土地を教えてあげたい

TV放送局、自治体、教育委員会、郷土史研究団体  
商工・観光課、商工会・商工メディアの方々など

## ② アニメを活用してくれる地元の方々

地元の名産を全国に広めたい。地元の魅力を伝える交流がしたい。子供たちに地元の物語を伝えたい。地域に対する想いをもつ方々に、アニメを活用していただいています。



海に親しんでほしい

地元の商店・企業、教育機関、ボランティア団体、住民の方々など

## ③ クリエイターたち

アニメ制作では「日本の昔ばなし」などを手がけたクリエイターなど、業界の第一線で活躍している制作陣が担当しています。一つのアニメをつくるのにさまざまな人たちが携わっています。

Creator's Voice

2018年からはじまった「海ノ民話のまちプロジェクト」は2020年までに17の地域のアニメ作品を作り上げた。プロジェクトの立ち上げから携わり、すべての「海ノ民話」のアニメーション監修をしている、アニメーション映画監督である杉井ギサブローさんにプロジェクトに取り組む想いを語ってもらいました。



杉井 ギサブロー

アニメーション映画監督  
日本画家

【Profile】

1961年虫プロ創立に参加。TV「鉄腕アトム」「悟空の大冒険」などを担当。69年、グループ・タックを結成。映画「クレオパトラ」など。宮澤賢治の「銀河鉄道之夜」をアニメ化、毎日映画コンクール大藤賞を受賞。「あらしのよるに」などを監督。10年、文化庁より映画功労賞が贈られた。

「海の安全」を守るというテーマを越えて、自然と人間の関係を考えるきっかけとなれば嬉しい。

私たちは、地球の温暖化、海のプラゴミ、震災、コロナ禍といった問題に対峙しなければならない時代を迎えています。そのような時代に、海にまつわる民話や伝説を語り継ぐという「海ノ民話のまちプロジェクト」は、時代に対しての問題提起でもあるのではないかと考えております。アニメによって伝えられることは、微小な運動にすぎないかもしれませんが、しかし、そのアニメという表現は、年齢も国籍も超えて伝えることができる力も持っています。このプロジェクトが少しでも多くの人に広がり、「海の安全」を守るというテーマを越えて、自然と人間の関係を考えるきっかけともなれば嬉しいと思うのです。

選ばれた物語の特色やメッセージ性を多くの人に伝えるには、どのような演出が適しているかを常に論議しています

民話にはたくさんの知恵や教訓が含まれており、繰り返し繰り返し伝えていくことが今の時代にこそ必要なものだと感じています

民話は、内容も語り口も様々で複雑な要素を持っています。そのような民話を語るには、アニメという絵画の自由さと映像の豊かさをもつ技法ほど相性のよい表現はないと思います

エンタメを中心に制作してきた「昔ばなし」から、海の教訓を抽出する「海ノ民話」の制作では、作り手としても新しい発見や学びがありました

プロデューサー、監督、演出家、美術、脚本家、アニメーター、制作進行、作曲家、音響、録音、声優など



# 「海ノ民話」に想うこと。

～アドバイザーメンバーズからの提言～

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として行われている

「海ノ民話のまちプロジェクト」では、

「海ノ民話」を学びの教材や観光資源として活用してきました。

デジタルでのコミュニケーションが飛躍的に発達した現代において、

感謝、畏敬、習俗、禁忌などの海洋文化の継承は、

自然と人、あるいは、世代を越えた人との関わりにおいて、

ますます重要な意義をもつと考えています。

本プロジェクトでは、そのような考えから

学術面、事業面、クリエイティブ面など、専門分野で活躍する方々に

アドバイザーメンバーズとして多角的な視点で意見や助言をいただきながら、

今後の事業戦略や事業展開づくりに役立てていきます。

より深く専門的に、かつ、枠を超えた連携の波を広げていくために、

アドバイザーメンバーズの方々からいただいたメッセージを紹介します。

## Recommendation

「海ノ民話のまちプロジェクト」や「海ノ民話」に関しての意見や助言を、第一線で活躍されている方々に、それぞれの専門分野から伺いました。



### 学術的に読み解く 「海ノ民話」の背景

かるがも教室主宰

志村 裕子 先生 (しむら ゆうこ)

#### [Profile]

幼児からの体験型アート教室「かるがも教室」主宰・保育学会会員・東京藝大美術教育研究会会員・小澤晋はなし大学再話研究会会員他。著書「孫の心をわしづかみにする遊び77」PHP研究所 2011年、論文「子どもの描く絵を物語として読み解くための試論」「保育学研究48-1」日本保育学会 2010年など多数。昔話絵本に詳しい。

### 民話と民謡の共通点

民謡歌手

沢田 藍さん (さわだ あおい)

#### [Profile]

「民謡の里」福島県南相馬市生まれ。1歳半で初舞台。3歳で民謡大会に初出場。史上最年少の4歳で「相馬流れ山全国大会(少年の部)」優勝。現在は、民謡歌手として舞台活動やレコーディング、民謡の普及活動・指導にも尽力。2019年「第48回全東北民謡選手権大会」優勝。全国大会優勝歴多数。



### 朗読劇や 読み聞かせ活動を経て、 伝えたいこと

株式会社青ニプロダクション  
専務取締役 営業制作本部長

池田 克明氏 (いけだ かつあき)

#### [Profile]

アニメ、外国映画、ドラマCD、イベントなど、声優のマネジメントやプロデュース活動を統括。声優が活動しやすい環境づくりにつとめる。アニメやゲームの文化を軸とした国内外のファンが集う聖地づくりや地域に根差した文化の継承など、地域活性化事業にも尽力。声優事業者協議会の副理事長も務める。



## 学術的に読み解いた「海ノ民話」の背景

### 子供たちに愛着を育てる民話の楽しみ方

民話と呼ばれる物語は、子供たちでも簡単に覚えることができます。その理由は、物語の語り手が聞き手へ、聞き手が語り手となるうちに、日本人だれもがわかりやすい言葉とストーリー構成にブラッシュアップされてきたからです。聞くだけではなく自ら語る。この繰り返しによって、子供たちはその物語に入り込むことができます。さらに、お話の主人公に自分を重ねることによって、物語は深く心に根付いていきます。また、「作り遊び」や「ごっこ遊び」で物語の世界を再現すると、より深い理解が生ま

れます。例えば、「海ノ民話」の「おなべ岩」は、お婆さんとタコのお話ですが、タコの作品を作ってみるなどをすると、より民話の世界を身近に感じられるはず。作り遊びを取り入れるなら、3、4歳の子供たちでも、民話を楽しむことができます。このように、子供たちの愛着を育てる民話の楽しみ方は、さまざまです。ぜひお試しください。



### 日本と外国の民話の違い

例えば、日本の民話である「亀の松」では、母は子を助けるため亀の姿になったまま人間に戻りません。それに対して、外国の物語では人間から動物に姿を変えたとし、もとの人間の姿に戻り、結婚で終わるという特徴があります。台風の通る日本では、自然界のリズムに従いながら、狩猟や採集で生計を立ててきました。恩恵と同時

に被害を受ける生活だったので、当然ながら自然への畏敬の念が育ちました。それに対して、古くから牧畜や栽培で生計を立ててきたヨーロッパ大陸では、自然や動植物は、人間がコントロールできるものとして捉えられています。このような文化の違いは、アニメーションでこそ伝えられる世界観であると思います。



### 民話が伝えてくれるもの

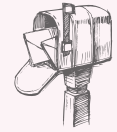
民話には、モラルや教訓など日本人が良しとしてきた価値観が、語り継がれる間に、自然と盛り込まれています。世界観、信仰、風俗、社会的秩序。それらの文化を、こういうものだよと教えるのではなく、楽しみながら知ることができ、感じるすることができます。

現代はグローバル化が進み、テレビなどメディアのコンテンツから文化的差異が減る傾向にあります。日本の文化を伝えるためにも、「海ノ民話」のアニメーションは重要な意義を担っていると考えます。



民話をもっと楽しくなる

## みんなへのお手紙



「民話の世界ってどんなところだったの？」

「ばくのまにも民話があるの?」「聞かせてもらった昔話をもっと聞きたい」。そう思うみんなに向けたお手紙が届きました。

### ドキドキする冒険や笑ってしまう失貝女談だってある

民話とは、昔話や伝説など、昔から語り継がれてきたお話、昔語りのことです。日本の国ができて聞かれないころの大昔、ふしぎなこと、おそろしいこと、恐ろしいことがたくさんありました。人々はこれらの出来事をお話にして、口伝で伝えてきました。長い年月、広い地域で、たくさんの人々が伝えるうちに、お話はみんなが同じように大切に思う「生きるための知恵」を伝える昔話となりました。ド

キドキするような冒険やヒーローの活躍、不思議な出来事や笑ってしまう失貝女談もあります。昔話の多くは、語られてきた長い間に、名前や場所を指し示さないお話となりました。それに対して、ある決まった場所で行った大切な出来事は、忘れないように、伝説として語り続けられました。今そこにある身近な場所で、昔、お話を語られたような出来事が起こったなんて、驚きますね。

### アニメと地図をみて、民話の舞台を探してみよう

みんなには、「海ノ民話」のアニメーションを手がかりにして、お話の場所が今どこにあるのか、ぜひ探してもらいたいです。昔の地図が無くて、今の地図の上に、糸地図を重ねて描くとわかるかもしれません。行くことができたなら、お話に出てくる人になったつもりで、その場所に立ってください。

「何がおこるのかな?」などと感じたら、次は、誰かにそのお話を教えてください。あなたが話をすることで、あなたの気持ちのように、昔の人の「生きるための知恵」も伝わります。糸地図ができていたら、見せてあげてくださいね。あなた自身が、未来へお話をつなげる語り手になってください。

### 好きな「海ノ民話」は?

「一里島」と「海の神と陸の神」です。「一里島」は、島を主人公にする切り口が面白いです。「海の神と陸の神」は、花と小魚が小さな営みから、台風や砂浜など、大きな営みを作っているという、息づいた自然観の表現が好き。日本的な自然観を感じてほしい。





## 民話と民謡の共通点

### 情景に想いを馳せる

民話は庶民の話とされていますが、民謡は私のなかでは大衆芸能です。盆踊りで民謡を聴いたことのある方も多いと思いますが、ほとんどが漁や田植えをしているときに唄う作業歌です。大漁や豊作を祝う唄や、農作業の苦勞を感じさせるものがあります。例えば、私のふるさとである福島に伝わ

る「原釜大漁祝い唄」。もともと鮪などを捕る角網漁が盛んな地域でもあったので、歌詞のなかにも大漁を祝う漁師の喜びがあらわれています。このように当時の情景に想いを馳せることができるということは、民話でも言えるのではないのでしょうか。



### 漁や田植えを知らない子供たちへ

現代はデジタル技術が発達して、漁や田植えなど、民謡が生まれた当時のやり方はほとんど残っていません。「稲刈り、どうやるの?」「漁ってどんなもの?」そんなお子さんもいると思います。民謡に関しても、私たちの祖父母世代は聴いている方も多かったですが、今の子供たちの祖父母世代は聴いたことがない方も多いです。だからこそ、今のお子さんたちは、民謡は新しいものと認識している気がします。既



成概念がない分、民謡がどのように響くかは私たち次第。そのために、まずは興味をもってもらう。唄ももちろんですが、和楽器、パフォーマンス、着物、SNS、動画など、興味の入り口はさまざまです。民謡のことを知ってもらうために、できることはたくさんある。その先に感じてもらえることがある。そう思っています。



### 海を渡り、伝わっていく

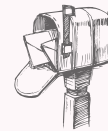
北前船の船乗りたちによって海をわたり全国に伝わっていった民謡があります。熊本県の牛深ハイヤ節。この民謡は、船乗りたちが歌い継いだことで、日本中の港で広がっていき、40箇所以上の地域に根付いていったようです。

民謡に関しても、まったく別の地域で同じような物語が残っていることもあると聞きます。民謡も民謡も、海や人とのつながりが深い。歴史の流れのなかでどのように伝わってきたのか。とても興味深いです。



民話をもっと楽しくなる

### みんなへのお手紙



「民話の世界ってどんなところだったの?」

「ばくのまにも民話があるの?」「聞かせてもらった昔話をもっと聞きたい」。そう思うみんなに向けたお手紙が届きました。

民話や民謡を知ると、ふるさともっと好きになる。



わたし達には、それぞれ生まれ育った「ふるさと」があります。あなたのふるさとの美味しいものは、なんですか?海や川、山...そんな素敵な景色はありますか?ふるさとは、それぞれ異なる景色や歴史・文化があり、わたしは「民謡」もそのひとつだと思っています。「民謡」を通してあなた自身のふるさとをもっと知ることで、もっと誇られて、もっともっと大

好きになることになってほしい。

わたしが唄っている「民謡」も「民謡」のように、地域によって異なる特色を持っています。民謡や民謡を知ること、ふるさただけでなく、イかにたくさん人の地域を知ることが出来ますよ。ぜひ民謡と一緒に、民謡も聴いてみていただけたら嬉しいです。

### 好きな「海ノ民話」は?

「大根明神のアワビ祭り」です。大きなアワビが印象的で、「アワビ祭り」という地域の伝統文化に興味を湧きました。また、「海ノ民話」はそれぞれの物語によってイラストのテイストが違うことが新鮮でした。



### 東京にできて嬉しかったことは?

盆踊りで「相馬盆唄」が流れていたことです。私は福島県南相馬市の生まれなので、赤ちゃんのときから聴いていたふるさとの民謡です。ふるさとではよく流れているのですが、他の土地で聴くと、また特別な気持ちになりますね。



### 民謡にもCMソングがあったというのは本当?

「相馬二遍返し」という民謡です。1782年の天明の大飢饉をうけて、相馬藩は復興のため他藩に移民を募っています。相馬は義理と人情が咲くいいところよと褒め称える宣伝歌と言われています。今でいうCMソングですね。





## 朗読劇や読み聞かせ活動を経て、 伝えたいこと

### 声から入る日本の物語

映像があって、キャラクターがいて、そこに命を吹き込むことが声優の仕事です。そこに自分がいることをイメージして、表現するんです。一方で声優は、映像や文字がなくても、耳からの情報で聞き手の想像力を膨らますことができます。以前、日本に伝わる物語を次の世代に伝えていくという趣旨で、「遠野物語」や「古事記」などの朗読劇

や読み聞かせをしたことがあります。物語をデフォルメしてエンターテインメントとして届けることで、声優ファンから、聞いたことはあるけれど読む機会がなかった方々まで届けることができました。もちろん、声優のようなプロではなくても、耳で聞いた物語はイメージも膨らみ、心に残りやすい。声の力には可能性を感じています。

### むしろ大人のほうが、学びにつながるプロジェクト

勉強の意味では難しくても、エンターテインメントであれば伝わる場合があります。語り部さんの高齢化などで、地域に根付いた物語の継承が難しくなっているなかで、「遠野物語」や「古事記」の朗読劇は、非常に意義のある取り組みでした。一方で、海にまつわる民話をアニメにして伝え、語り継ぐという「海ノ民話のまちプロジェクト」にも共通した想いを感じています。声優に声で情景を想像させる力があるように、アニメには

物語をわかりやすく届けたり、その場所に興味を持たせたりする力があるのです。こういうプロジェクトがあると、民話やその場所の理解がより深まるのではないのでしょうか。文化を継承することは、もちろん子供たちにとって大切なことです。しかしこのプロジェクトは、むしろ大人のほうが、聞いたことのある場所にこんな物語があったんだという感動があると思います。大人も子供も学びにつながるプロジェクトですね。



◀2019年10月26日(土)-27日(日)に行われた遠野物語ライブフェスティバル「声優たちの遠野物語」の様子。「遠野物語」発刊110周年を記念して、岩手県遠野市にある「とおの物語の館」にて現代の語り部である声優たちが「遠野物語」の世界を朗読した。写真右から、古谷徹氏、伊藤かな恵氏、平野正人氏。(主催：幸せ出ずる国いわて実行委員会/協賛 遠野市)

▲「とおの物語の館」  
「遠野物語」の著者である柳田國男氏の展示館がある。



民話をもっと楽しくなる

## みんなへのお手紙

「民話の世界ってどんなところだったの？」

「ぼくのまちにも民話があるの?」「聞かせてもらった昔話をもっと聞きたい」。そう思うみんなに向けたお手紙が届きました。

### たくさんの物語にふれて、さまざまな感情を覚えてほしい

子供のときにみたものは、みんなの成長に影響をあたえることがあります。だから、今、良い物語にたくさんふれて、さまざまな感情を覚えておくとよいと思います。でも、歴史や文化の話というと、なんだか難しく聞こえてしまいますよね。「海ノ民話のまち」のアニメは、たくさん

の学びをエンターテインメントとして楽しみながらみることができる物語です。みてもらって、興味があれば、ぜひその場所にいらして、原作の物語を手にとりたててみてください。きっと物語にスッと入れると思います。

好きな「海ノ民話」は?

一番最初にみた「一里島」です。実際に行ったことがないところでも、そこにはこんな成り立ちがあるんだということを知れて、とても興味がわき、他の地域の物語も次、また次と、みたくりました。



朗読で声優さんはどなたにこだわっていますか?

朗読は絵や映像等がない分、その物語の背景や情景を聞き手に想像させてくれる表現力で伝えてくれます。聞き手は実際にその場所に連れてきてくれたような感覚を覚えることができると思います。

「海ノ民話」をみていただいた感想は?

5分という短い時間で物語がまとまっていて、わかりやすかったです。よい意味で気軽にみることもできて、デザインや色の感じや柔らかい雰囲気とかも、すごくいいなって思いました。

方言を一部残して、遠野弁を知っている人も、知らない人も楽しめるようにしました。地元の人、遠方からお越しいただいた人にも喜んでもらえました。

「遠野物語」の朗読劇の際に、工夫したところは?

